

中國出土資料學會
平成25年度第1回例会

今回の例会は、東京学芸大学史学会との共催になります。

日 時：平成25年7月13日（土）
平成25年度第1回例会
受付開始 12：30～
研究報告 13：00～17：00

場 所：東京学芸大学S棟103教室（東京都小金井市貫井北町4-1-1）
小金井キャンパスマップ：<http://www.u-gakugei.ac.jp/pdf/gakugeimap.pdf>

会場への ①JR武蔵小金井駅北口より

アクセス： 5番バス停「小平団地」行きに乗車、約10分。「学芸大正門」下車、徒歩3分。

②JR国分寺駅北口より

徒歩約20分（JR国分寺駅北口→早稲田実業→連雀通り→小金井市保健センター前）

報告Ⅰ 鈴木 直美（明治大学文学部兼任講師）

発表題目：鳳凰山前漢墓群出土簡牘にみる遣策作成過程と葬礼準備

発表概要： 報告者はかつて、馬王堆三号墓出土遣策の分析を通じ、遣策が葬礼にはたす役割を考察した。その結果、遣策は副葬品、および葬礼に必要な祭奠の準備リストであり、なおかつ他家から受領した贈品の記録であることが判明した。本報告では鳳凰山前漢墓群出土遣策を材料として、墓葬所在地域や遣策出土時の状況、墓主の階層などが異なる状況においても前稿での知見が普遍性をもちうるかを検証する。

さらに、遣策に上記の役割があるならば、遣策は葬礼を遂行するためのツールのひとつであったといえる。したがって、遣策作成から埋納にいたる作業過程を検証することは、遣策作成者（葬礼遂行者）の視点にたつて葬礼遂行のプロセスを復元することにつながる。本報告では遣策の文字だけではなく、その形状や編綴方法、出土時の状況など引き出しうる情報を駆使することで、遣策作成と葬礼準備の関係を明らかにしてみたい。

報告Ⅱ 邵 永海（北京大学中文系副教授）

発表題目：北京大學藏西漢竹書《反淫》整理與釋讀中的若干問題

発表概要： 北京大学藏西漢竹書《反淫》約59枚，其中完整簡約35枚，有殘斷者約24枚。整簡長約30.3-30.4厘米，簡寬約0.9-1.0厘米，完整簡字數爲6-29字不等，總字數約1225字。

是一篇已經佚失的漢代文學作品，文體是典型的七體；內容基本完整。初步研究表明，這是一篇重要的出土文獻。對西漢時期的文字、語言、文學研究都有啟發意義。本文討論《反淫》整理與釋讀過程中所遇到的一些問題，以求就正於方家。

報告Ⅲ 張替 俊夫（大阪産業大学教養部教授）

発表題目：岳麓書院蔵秦簡『数』について

発表概要： 中国では近年秦漢期のものと考えられる新たな算術簡の発見が相次いでいる。

それら算術簡の最初の発見は張家山漢簡『算数書』であり、我々は「張家山漢簡『算数書』研究会」を組織して、『算数書』の訳注を完成させることができた。

その後、2007年12月に湖南大学岳麓書院が香港の市場より購入した竹簡は科学的検証と内容解読の結果、秦簡であると断定された。その中に『数』と題する算術簡が含まれていた。この『数』には『算数書』や後代の『九章算術』と類似した算題も含まれているが、『数』のみに見られる特徴的な算題もある。我々は現在「中国古算書研究会」として『数』の訳注を作成する作業を進めている。

本発表では、『数』の中から幾つかの算題を選んで紹介するとともに、『数』に現れる算術の特徴について言及したい。

☆参加費(資料代) 500円

☆非会員の来聴を歓迎します

☆例会終了の後、懇親会を行う予定です。ふるってご参加ください。

連絡先（例会委員長）

〒400-0035

山梨県甲府市飯田5-11-1

山梨県立大学国際政策学部

名和研究室

Tel 055-224-5276（直通）

Fax 055-228-6819

E-mail : nawa@yamanashi-ken.ac.jp

